

愛東梨産地における「あきづき」の品質向上

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

愛東梨生産出荷組合(38名、10.6ha、以下、「組合」という)は、「幸水」と「豊水」を中心に栽培し、共選共販に取り組まれています。しかし、「豊水」は変形果が多いため秀品率が低く、販売単価低下の要因となっています。

課題解決に向けて、近年、変形果の発生が少なく、食味も良く消費者に人気がある新品種「あきづき」の栽培が始まり、現在22名が60aで栽培されています。しかし、「あきづき」は収穫適期が見極めにくい品種であり、平成27年度は早採りによる糖度不足や小玉果による秀品率の低下が問題となりました。

そこで、「あきづき」の品質向上に向けた技術支援を行い、愛東梨産地のブランド化および生産者の所得増加を目指しました。

【普及活動の内容】

摘らい・摘果等の研修会を3回開催するとともに、摘果の遅れや見落としがある生産者を中心に定期的な巡回を行い、大玉生産の重要性を理解し、実施されるよう促しました。

また、大玉生産は、夏季の気象変動に対応した適期のかん水が重要になりますが、水源から遠いほ場が多いことから、資材業者と連携して、移動式簡易かん水装置の説明および実演会を開催しました。



写真 出荷目合わせ会

適期収穫を徹底するため開催した出荷目合わせ会には、15名が参加され、石川県で開発された「あきづき専用カラーチャート」を活用して、「果皮色4」を目安に収穫することを説明し、役員からも早採りによる糖度不足にならないよう呼びかけられました。

【普及活動の成果】

活動の結果、果実品質は、秀品率75.7%(平成27年度:66.3%)、果実重も476g(同436g)と向上し、出荷量も大幅に増加しました。また、平成28年度は梅雨明け以降が少雨で経過したこともあり、かん水の重要性を改めて認識され、平成29年度に向けて2名の方が移動式簡易かん水装置を導入される見込みです。

今後は、「あきづき」の生産拡大と併せて、組合およびJA湖東と高単価での販売が期待できる方法等を協議し、販売戦略作成に向け支援していきます。

◎対象者の意見

研修会や巡回支援を受け、またあきづきの栽培にも慣れてきて、自身のあきづき生産額は去年の約3倍になった。まだまだ増えてくることが予想でき、期待している
(生産者A氏)